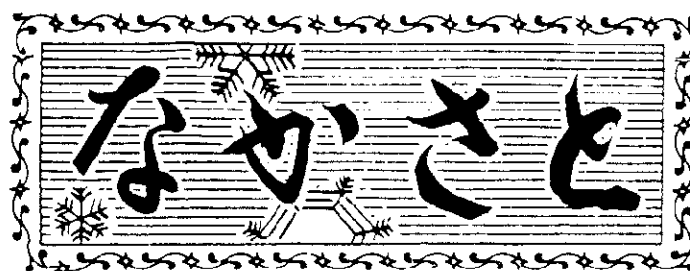


発行所
新潟県中魚沼郡
中里村公民館
毎月1回25日
定価1部5円



私たちの村	
人口	7,180 (± 1)
男	3,559 (± 0)
女	3,621 (± 1)
世帯数	1,654 (± 0)
11月30日現在	



冬本番

今年の初雪は、昨年より3日遅れたものの、14日の夜から降り出した雪が、16日には役場付近で46cmもつもり、初雪としてはめずらしい大雪となりました。

ふいに訪れた冬将軍には子供達もびっくり？高学年を先頭に、集団登校する小学生の列が冬の風情をかもし出していました。

水田利用再編対策 第二期実施にあたって

中里村の今年の転作目標面積は八三・九haであったのに対して、九六・五haの実施で一一・五%の転作達成率となりました。

農業をめぐる厳しい環境の中で御協力ありがとうございました。

さて、国は第一期に引き続き、第二期対策として56、58年の三年間、六十七万七千haを毎年転作するの方針を決定し、各県配分

一月の休日救急医

一月一日(木)	大島医院 川原町 (電二二九五七)
二日(金)	山口医院 野崎通 (電五二〇〇三)
三日(土)	千手診療所 中央町 (電八二〇三四)
四日(日)	水沢診療所 土市第三 (電八二〇三九)
五日(月)	上村病院 田中 (電二二一一)
六日(火)	至誠堂医院 西浦町東 (電二二二七六)
七日(水)	池田医院 本町西一 (電二二五八一)
八日(木)	山口医院 袋町中 (電二二二七四)
九日(金)	津南病院 大割野 (電五一一六一)
十日(土)	富田医院 神明町 (電二二二六九)

上村病院は救急指定病院です。

それによると、新潟県分は、今年の冷害分を控除した二万四千二百haで、昨年の約四四%となっています。57、58年には二万五千三十haとなり、約五十五%増となります。

県は12月22日の市町村長会議において市町村配分を行なう予定ですが、昨年の五十五%増となると中里村には約百二十ha配分となり、蠟八のいのち遊ばず詠歌講

人生往来

◎産 氏 名	父の名	部 落
大島基子子	正 平	茅川新田
南雲 宏司	忠 行	堀之内
大口 洋子	袈裟市	小 原
井ノ川雅史	重 幸	如來寺
南雲 浩男	久 雄	茅 川
富井美奈子	秀 一	市之越
樋口久仁子	仁	朴木沢
齋 喜 秀徳	利 米	倉 俣
心足らへり子に逢ふ旅は	美 紗	
雪囲い父の遺愛の五葉松を	独 山	
困い終りてお茶をすゝりぬ	独 山	
微震過ぎ離れおる子を偲ぶ夜半	栄 山	
しぐれの音を長く聞き入る	カウ	
ひと年の憂さも疲れも温泉に流し	玉 泉	
赤子泣きやまず初冬の手暗がり	大 泉	
小春日や野菜早採りしたを悔い	漫 雪	
彩雨かむれば胸にいいきお六梯	涼 子	
たまさかに野地の人影虎落留	岳 城	
秋空や日暮黒雲金屏風	芒 月	
落葉してあたり明るきたたずまい	中里文芸十二月投稿	
生くを喜び年の暮待つ	井ノ川玉治	
動から静へうつりし野山は残照に	映えて鐘の音吸われゆきたり	斎 子
へただけを残して立てる柿の木に	淡い初雪かかりてやさし	広田タマ子
磐梯は雪冠きつつ紅葉燃ゆ		

◎高 氏 名	年 令	部 落
新 鈴 正巳	(四)	角 間
新 春日 松代	(三)	十日町
新 大 哲雄	(三)	通 山
新 渡 定子	(三)	朴木沢
新 中 健一	(三)	上 山
新 村 泉	(三)	津南町
新 村 勇	(三)	小 出
新 高 久江	(四)	十日町
新 廣 政夫	(五)	高道山
新 上 洋子	(三)	上 山
新 富 彰	(三)	荒 屋
新 太 恵子	(三)	川西町
新 尾 由利子	(三)	堀之内
新 金 由夫	(三)	十日町
新 小 静枝	(三)	如來寺
新 瀨 和博	(三)	茅 沢
新 小橋川洋子	(二)	十日町

◎昇 氏 名

鈴木 ミネ	(三)	茅 川
川 数馬	(三)	荒 屋
山 田 三	(三)	清田山
鈴木 ユキ	(三)	角 間

冬場は、火気を使用する事が多く、しかも、冬囲いで避難口が少ないなどの事から大きな火災が発生しやすい時期です。

ひとりひとりが気をつけて火災事故をなくしましょう。

「働学の碑」を建立 定時制田沢分校閉校記念事業

昭和二十五年七月一日に田沢分
室として開校、翌二十六年四月一
日には分校に昇格した十日町高等
学校定時制田沢分校が来年の三月
三十一日をもって閉校されること
になりました。

昭和四十九年には入学生が十九
名に達し、八年ぶりに生徒数が前
年度を上まわって関係者をほつと
させるなど、かつては百名をこえ
る生徒が学んでいたことのある田
沢分校も、現在は四年生が三人在
籍しているだけとなりました。



田沢中学校の校門わきに建てら
れた記念碑には、十日町高校の板
橋校長先生の揮毫による「働学の
碑」の文字がきざまれています。
同委員会では来年三月末には記
念式典を挙げるほか、近いうち
に記念誌を発刊することにしてい
ます。

昭和二十七年に第一回卒業生を
出して以来、閉校までに五十五名
の卒業生を世に送り出すことにな
った同校の足跡を後世に残そうと
卒業生が中心となって閉校記念事
業実行委員会を組織、最初の事業
として記念碑の除幕式が十二月十
三日に行なわれました。

新民生委員が選任されました

十二月一日の民生委員一斉改選
により、次の方々が選任されまし
た。

老人福祉問題、低所得者(要生
活保護)問題、母子福祉問題、児
童福祉問題、心身障害(者)問題
各種施設への入所等の件で相談が
ありましたら、地区担当民生委員
の方にご連絡下さい。

民生委員担当地域分担

部 落	氏 名	電 話	担 当 地 区
芋 沢	大 島 常 助	2 3 3 1	芋沢・田沢・東田沢
如來寺	竹 藤 邦 吉	2 3 3 1	如來寺・豊里
桂	山 本 ケ ン	2 4 0 7	上山・桂
田 中	広 田 定 一	2 6 0 1	田中・小原・干溝
荒 屋	服 部 ネ ン	5 2 5 7	山崎・通り山・荒屋
朴木沢	樋 口 源 二 郎	2 6 8 1	高道山・朴木沢・朴木沢新田 き梗原
程 島	南 雲 作 重 良	2 3 6 1	白羽毛・鷹羽・市之越・程島
東田尻	清 滝 和 雄	8 2 7 4	東田尻・西田尻・西方
小 出	山 本 莊 平	8 7 1 3	小出・葦沢・角間
土 倉	山 田 範 茂	8 1 4 3	土倉・倉下
芋 川	菊 雲 フ ミ ヨ	2 2 5 9	芋川・芋川新田・原町
倉 俣	斎 喜 正 甫	2 5 1 9	倉俣・新里
重 地	鈴 木 源 平	8 5 8 7	重 地
清田山	山 田 栄 一	8 7 9 6	清田山・下山
田 代	滝 沢 栄 春	8 7 7 3	田 代
宮 中	高 橋 ヨ ネ	2 5 5 9	宮 中
本屋敷	中 島 久 助	7 3 7 3	堀ノ内・小沢
新屋敷	安 部 ヨ キ 井	7 3 1 8	新屋敷・本屋敷

昭和六十年刊行完了予定 中里村史編纂事業のうごき

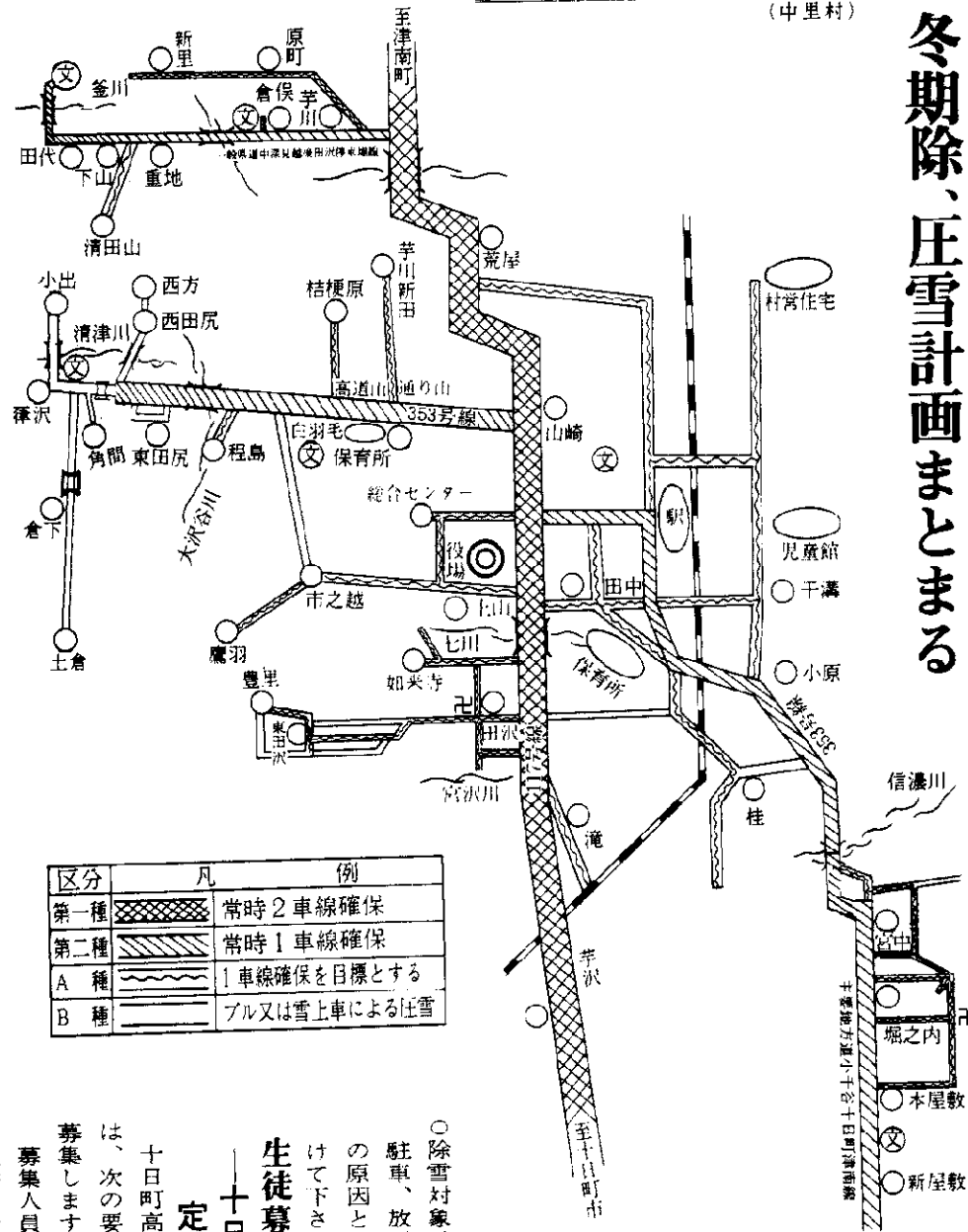
中里村創立二十周年の記念事業
として、去る昭和五十二年に手が
けられたものの、諸般の事情によ
り中断されていた中里村史の編纂
事業が来年度から本格的に再開さ
れることになりました。

村史の編纂事業は、先史時代か
ら現代に至るまでの村のあゆみを
平易に記述し、広く一般に中里村
の歴史を理解してもらい、村民の
愛郷心を養い中里村発展の指針と
することを目的として行なわれる

ものです。村史の編纂に当たっては、
記述の態度は民衆の側におき表現
はわかり易く、写真、図版、統計
資料等をできるだけ多く収録し
て村民に親しまれるものとする方
針で、昭和六十年年度までには編纂
及び刊行を完了したいとしていま
す。

上村村長を会長として十六名で
構成される編纂委員会や実際の調
査、執筆にあたる九名の専門委員
の方々も今年中にすでに数度の会

昭和55年度 冬期除・圧雪路線計画図
(中里村)



区分	凡 例
第一種	常時2車線確保
第二種	常時1車線確保
A 種	1車線確保を目標とする
B 種	ブル又は雪上車による圧雪

除雪作業にご協力を 冬期除・圧雪計画まとまる

今冬の除雪、圧雪計画がまとま
りました。冬期間の交通確保のた
め次の点に御協力下さい。

○除雪作業中は危険ですので、係

員の指示に従い、機械には絶対
に接近しないで下さい。

子供さん、お年寄りの方は特に
注意して下さい。

生徒募集 十日町高校 定時制中心校

○除雪対象路線、待避所への車の
駐車、放置は除雪作業遂行不能
の原因となりますので絶対に避
けて下さい。

は、次の要領で来春の入学生徒を
募集します。

募集人員 普通科一学年四〇名
願書受付 56年2月2日
2月9日(日)正午

出願手続 入学願書、受験票
入学考査料(三千円)を、在
学(出身)中学校長を経て、
十日町高等学校長へ提出(中

年末年始の防犯運動 にご協力下さい

警察と防犯協会では年末年始に
発生しやすい犯罪や各種事件、事
故を防止し、地域の皆さんの生活
の安全と平穏を確保するため、次
のことに重点をおいて一月十日ま
で防犯運動を行ないます。

皆さんの自主防犯活動とご協力
をおねがいします。

◆金融機関対象の強盗事件等、
凶悪事件及び侵入盗の予防と検
挙

◆交通死亡事故の抑止

◆暴力団犯罪の取締り

◆少年の非行防止

◆雑踏事故の防止

議を重ねたり、実際の調査活動を
展開したりしていますが、更に来
年度からは村史編纂室を設置し、
専任担当者を配置して本格的な編
纂活動をすすめることになったも
のです。

専門委員の調査に際しての協力
をはじめ、手持ち資料の提供等に
ついて村民の皆さんのご協力をお
願ひいたします。

調査、執筆にあたる専門委員は
次の方々です。(敬称略)

総括監修者
竹内 道雄(長岡工専教授)

中世担当
佐野 良吉(十日町)

近世担当
剣持 利夫(上越教育事務所)

須藤 重夫(津南中学校教頭)

民俗担当
多田 滋(十日町
実業高校教諭)

近現代担当
小柳 定夫(民俗学会々員)

上代担当
仲林 素司(薬剤師)

地質担当
中沢 克己(田沢中学校教諭)

考古担当
石沢 寅二(考古学会々員)

学校でわかります
入学試験日 3月16日(日)
その他

①入学後 年間所得一一九万円
未満の人には、国が卒業まで
の四年間、修学奨励金として
毎月七千円を支給します。

②以前に中学校を卒業した人も
歓迎します。

③学校生活などについて不明の
点は、十日町高校定時制中心
校へお問い合わせ下さい。
(電話)〇二五七五(2)
三五七五、三五七六